観　光　TOURISM サイクルツーリズム

近年、自転車で地域特有の道路環境を走り、地域独自の資源や魅力等を楽しむことができる「サイクルツーリズム」が世界的に人気を集めています。健康や環境に優しく、地域の自然や地元の人々、食事や温泉といったあらゆる観光資源を五感で感じ、楽しむことができるため、政府も観光振興の方策としてサイクルツーリズムの取組が効果的であるとしています。2018年６月には、「サイクルツーリズムの推進による観光立国の実現」を掲げた自転車活用推進計画を閣議決定し、世界に誇るサイクリング環境の創出を目指すこととしました。

サイクルツーリズムによるインバウンドの地方誘客の取組は全国各地で行われ始めており、和歌山県では、全長約800㎞のサイクリング推奨ルートを「WAKAYAMA800」と名付け、PRとして英語とフランス語の紹介動画をHPに掲載し、和歌山県の壮大な自然景観や歴史的建造物、温泉などの魅力を発信しています（図表１）。様々なレベルに対応したサイクリングロードの整備、利便性の高い受入環境、サイクリングを活用した地域づくり、の３つの観点から、新たな観光資源を創出し、地域活性化につなげています。

三重県でも大規模な自転車整備事業が今年から本格的に動き出します。2020年の東京五輪開催までに、三重県など６県の太平洋沿岸を通る全長約1,400㎞の「太平洋岸自転車道」（図表２）を全線整備することで、2018年11月に国および千葉、神奈川、静岡、愛知、三重、和歌山の６県が基本合意しました。分かりやすい案内看板や路面標示を整備するほか、統一のロゴマークを作り、日本語が読めなくても迷わず安全に自転車旅行を楽しめるようにする方針です。太平洋岸は都市部にも近いため、国内最長の自転車道として、外国人旅行者を呼び込む“ゴールデンルート”となることが期待されます。

サイクルツーリズムによる地方の魅力発信は、コト消費の需要が高まるなか、サイクリング大国といわれる台湾や、アウトドア観光を好むとされるヨーロッパからの訪日客のニーズに応えられるようになり、2020年までに訪日客数4,000万人を目指すための効果的なPR方法の1つといえます。もっとも、観光客を本格的に呼び込むためには自転車道の整備だけでなく、官民が連携してグルメスポットや観光地との接続を考えるといった取組が必要となってきます。

三十三総研 調査部 研究員　佐藤 聡一郎

図表１　各地のサイクルツーリズムの取組

和歌山県「WAKAYAMA800」　全長：800㎞

英語とフランス語の紹介動画をHPに掲載し、サイクリングで訪れることができる和歌山県の壮大な自然景観や歴史的建造物、温泉などの魅力を発信。

滋賀県「ビワイチ」　全長：193㎞

空気入れや工具の貸し出し、トイレの提供などを行う「サイクルステーション」が複数設置されているほか、琵琶湖周辺の観光スポットなどの情報が入手できるスマホ向け無料アプリを提供。

四国「四国一周サイクリングルート」　全長：1,000㎞

四国をスタンプラリー形式で一周する「CHALLENGE 1,000㎞プロジェクト」を開始し、完走者にはプレゼントを贈呈。飲食店や宿泊施設などとも連携し、参加者は様々な優待が受けられる。

（資料）各種資料を基に三十三総研作成

図表２　太平洋岸自転車道のルート

（資料）国土交通省関東地方整備局の資料を基に三十三総研作成

San ju san Institute of Research,Ltd. All rights reserved.